

## 生活困窮世帯等の子どもと家族の状態



### case01 衣服や髪などが不衛生、不健康

何日も同じ服を着ていたり、お風呂に入っていない、やせ細っている、不健康な様子のある子どもは、ネグレクトを受けている可能性があります。経済的な困窮ではなく、親の心や時間に余裕がない状況が考えられます。

### case03 虐待を受けている

経済的な困窮に関わらず、虐待を受けている子どもは、心にも身体にも大きな影響を受けてしまいます。自尊心や自己愛が著しく低下してしまうことで、将来、その子どもが生活困窮になってしまうことも考えられます。

### case05 学習意欲が低い

家庭内の問題などから勉強に集中する余裕が持たなかったり、分からないことを相談できる人がいない、学校外で学習できる環境がないことなどから、学習意欲が著しく低下して進学にも無関心になってしまう場合があります。

### case02 ふだんの子どもの言動が不安定

じっとしていられなかったり、大きな声で叫んだり、友達とよく喧嘩をしたり、目線が落ち着かない子どもは、大きなストレスを抱えている場合があります。家庭での親との関わり方が影響していることも考えられます。

### case04 ふさがち、不登校

一時的ではなく、長い間ふさがちになってしまっていたり、不登校になってしまう子どもは、家庭内の問題をはじめ、悩みや不安を誰にも相談できずに1人で抱え込んでいる場合があります。傍に頼れる大人がいなかったり、それが考えられます。

### case06 親の生活環境が整っていない

子どもの親やその家庭で、就労や精神的な問題、家族間の問題など様々な理由で生活環境が整わず、子どもにもあらゆる点で影響してしまっている場合があります。子どもへのケアと同時に、その親と家庭へのケアが必要です。

生活困窮世帯等の子どもで、支援や助けを必要としている子どもは、貧しい環境ではないところにも多くみられ、その問題は多岐にわたり複雑です。

上記のような状態にある子どもや家庭を見つけたら、まずは仲間どうしで検討し、その後、関係する専門機関へ連絡し、複数の機関で連携して対応するようにしてください。

生活困難世帯等の子どもとその家庭への支援を、個人や1機関だけで対処することは難しいです。



#### 【問い合わせ先】

島田市役所 子ども未来部 子育て応援課  
〒427-8501 静岡県島田市中心町1番の1  
TEL.0547-36-7159 FAX.0547-36-8006



# 島田市“つなげる手”ガイドライン



すべての子どもたちの“こころ”と“からだ”が健全に育まれていくために  
すべての子どもたちに学びの機会があるために



生活困窮世帯等の子どもとその家族が必要な支援や助けにつながるための

## “つなげる手”ガイドライン



はじめに... 生活困窮世帯等の子どもとは？子どもの貧困とは？支援の対象は？

### 生活困窮世帯等の子どもは、家が貧しい子ども以外も含めた支援対象

国では、「子どもの貧困対策の推進に関する法律」を施行して“子どもの貧困”対策を推進しています。“子どもの貧困”とは、世界共通指標の1つ「子どもの貧困率」を基準にしています。日本は13.9%（平成27年）でおよそ7人に1人の“子どもが貧困”状態という世界的にも貧困率が高い状況です。この数字は、世帯の所得から計算されているものなので、経済的な事情だけを見て判断されています。しかし、子どもの心身の健全な成長を考えたとき、経済的な事情だけではなく、幼少期の経験の不足や虐待による精神的な困窮など、さまざまな観点で判断していかなければなりません。島田市では、経済的困窮、モノや経験の欠如、精神的な困窮などの状況にある子どもを生活困窮世帯等の子どもとして、支援につなげていきます。

### 子どもの貧困率

13.9%



7人に1人の子どもが貧困

## 生活困窮世帯等の子どもと家族への対応 3ステップ

### ステップ 1

#### 生活困窮世帯等への理解と気づきの意識

生活困窮世帯等の子どもがどのような状況にある子ども（裏面を参照）なのかを理解して、日ごろから気づける意識を持つことが大切です。

### ステップ 2

#### 寄り添う姿勢と長い視点での対応

生活困窮世帯等の子どもや家族のうち、支援や助けを受けずに困っている潜在的な困窮世帯には、時間をかけて親身に寄り添う対応が必要です。

### ステップ 3

#### 日ごろからの関係機関との連携

生活困窮世帯等の子どもと家庭に支援する専門機関は分野を超えて広く地域で活動しています。関係する機関との日ごろからの連携が、適切な対応につながります。

#### 早期発見・早期対応ポイント

生活困窮世帯等への支援について、支援対象の家庭状況や対応策についての理解を深め、早期発見と早期対応ができるようになるためには、日ごろのミーティングや仲間うちでのこまめな情報共有が重要です。

